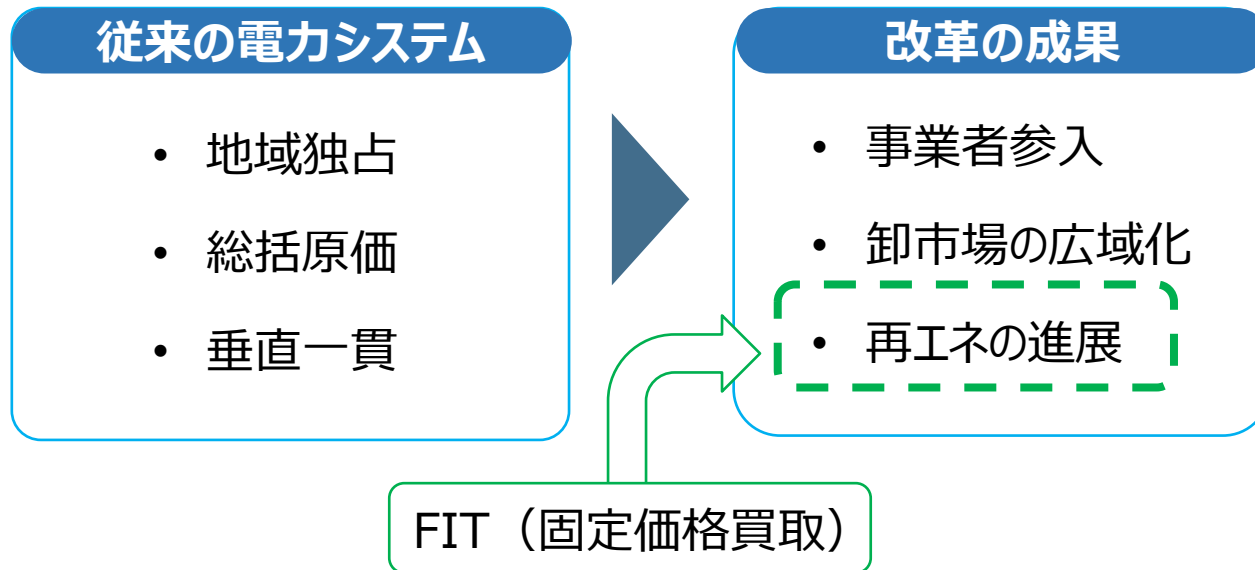


電力システム改革（2011-2020）の振り返り



第1次改革 の総括 (2021年まで)

- ・ 需要家の選択肢や事業者の事業機会の拡大
- ・ 電力市場の流動性の高まりと価格の低下
- ・ 再エネ比率の上昇

直面する 課題 (現時点)

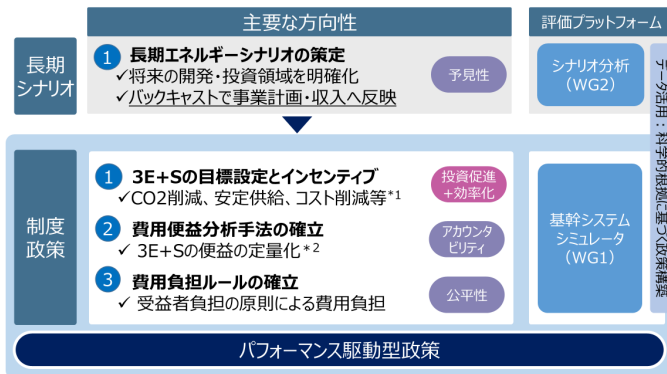
- ・ 需要増に耐える持続可能な事業基盤と安定供給確保
- ・ 成長志向型・地域共生型のGXの推進
- ・ 合理的な価格水準の確保とサプライチェーンの強靱化

持続可能なS+3Eを支える制度・政策

パフォーマンス駆動型政策

3-2 基幹システム：社会全体の3E+Sを実現するパフォーマンス駆動型政策

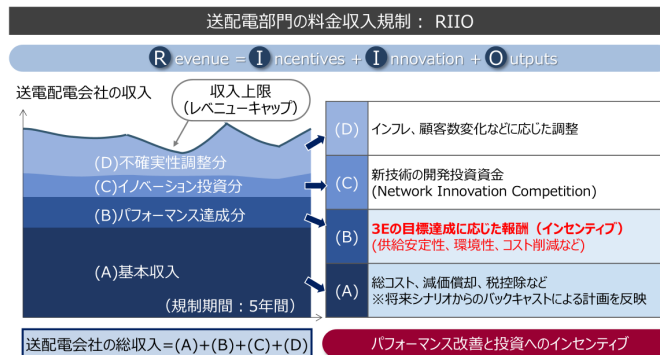
- 基幹システムは計画から建設まで10年、利用は～100年の重要インフラ
- 長期を見据えた投資促進と効率化を両立し、社会全体の3E+Sを支える



*1 設備仕様のグローバル標準化やデジタル化などを含む
*2 経済性については電源とネットワークのトータルコストを考慮する必要

3-3 英国のパフォーマンス駆動型政策（参考）

- 3Eの目標とインセンティブを設定により投資促進とコストダウンの両立を図る



レベニューキャップ

燃料価格に左右されにくい安定電源の確保としての原子力発電の必要性

- 燃料調達や市況ボラティリティに左右されない国内供給
- CNのイノベーションと安定供給を支える発電投資保

安定供給に関する新たな課題

- CN両立のため、非効率石炭フェードアウトのなか、LNGへの依存
- 昨冬におけるkWh（燃料）不足による需給ひっ迫。前日スポット市場に頼る新電力に損失
- 発電投資を過度なリスクに晒さない仕組みが必要

国際的な燃料価格に左右されない
電源の必要性

カーボンニュートラルを達成するイノベーション

- (再エネ・水力・原子力など) 既存のCN技術に加え、水素・アンモニアなど新燃料や分散型電源、蓄電池など、多様なリソースの調和が必要。
- kWhでの競争原理に加え、将来のCNを見据えたトランジションにおける各電源の個性に応じた競争原理の在り方

イノベーション実用化だけでなく、それまでの「つなぎ」にも目配りが必要

2030年 CO2△46%をはじめ、CNトランジションプロセスを支える電源の確保が必要
短期から超長期までの時間軸のなかで、安定的な発電投資を支える仕組みが必要

脱炭素電源と
安定供給

エネルギー政策の重点 : S + 3E

経済効率

合理的な価格水準の確保とサプライチェーンの強靱化

脱炭素化

成長志向型・地域共生型のGXの推進

- ・ メリットオーダーの追求
- ・ (小売)事業者参入と多様なサービスの提供

- ・ CN2050宣言
- ・ FITや優先給電など再エネの推進

安定供給

需要増に耐える持続可能な事業基盤と安定供給確保

安全性